

宮城学院女子大学

Partir

[パルティール]

あなたのこれからに贈りたい
Live Letter from MG



- 15 MG archives / お知らせ
- 14 CAMPUS NEWS
- 13 サークル紹介
- 11 My way MG way
- 09 卒業生の仕事場訪問
- 07 ACTION 躍動するMG生
- 07 特集 第6回宮城学院クリスマスマーケット
- 05 学問へのいざない 「読み調べて、歴史的事実を発見すること」を学ぶ 「知識をもとに自ら考え判断すること」を学ぶ
- 01 誌上ゼミ 実践やフィールドトリップを通して 建築設計・デザイン・まちづくりを学ぶ

「Partir (パルティール)」はフランス語で「出発する」
新しい時代に飛び立とうとする女性たちを支援、励ますために、
宮城学院女子大学から発信するコミュニケーション情報誌です。

MG archives

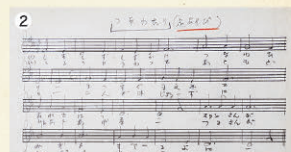
おもいでアルバム

♪いつのことだか 思い出してごらん あんな
こと こんなこと あったでしょう・・・

唱歌「おもいでアルバム」は大変有名ですが、この歌を作詞したのが宮城学院の同窓生、増子としであることは意外と知られていないかもしれません。増子さんは1926 (大正15) 年に宮城女学校高等女学科を卒業後、神戸の頌栄保母専門学校に入学し、保母の道を歩み始めました。戦後まもなく音楽リズムを導入した保育指導を手がけ、著書は『リズムカルプレイ』『幼児のための生活あそび』など数多く、保母の養成を通じて戦後の保育事業に貢献されました。

現代でも決して色あせないこの歌は、多くの人々の忘れられない歌として心の中に刻み込まれています。

(宮城学院資料室)



①増子とし(左奥) ②直筆の楽譜(部分)

(写真: 長女・吉野トキ子様所蔵)

宮城学院オリーブ募金

学生生徒園児の教育・学習・保育環境の整備として、在学生の保護者の方々、同窓生をはじめ、多くの方々より本学院へのご支援ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

寄付には4種類のメニューをご用意いたしました。皆様の想いや願いを汲み取り、更なる発展へと繋げるべく活用させていただきます。

※本寄付はあくまで任意の募集です。

寄付の種類

- 学生・生徒の奨学金
優秀で意欲的でありながら経済的な困難を抱えている学生に対し、勉学に専念できるよう奨学金の一層の充実をはかります。
- 教育・研究振興支援
次世代を担う人材育成や社会貢献を見据えた教育・研究のために役立てます。
特定研究支援/外国人留学生奨学金
- 施設・設備充実支援
教育・研究・学習活動のためのICT関連を中心とした施設設備の整備・拡充等、学修・学習環境の向上のために活用します。
- 課外活動支援
学生が様々な活動に積極的に取り組み、かけがえのない経験を重ねるなかで仲間との絆を深め、達成感を得ることで学生生活がより実りあるものとなるよう支援を行います。

お申込み方法

1. 銀行からのお振込み

本学院指定の振込用紙に必要事項をご記入の上、最寄りの銀行等からお振込みください。なお、七十七銀行本支店、仙台銀行本支店、ゆうちょ銀行から本学院指定用紙を使用してお振込みいただきますと振込手数料はかかりません。

※お手元に振込用紙がない場合はお送り致しますので、募金事務局までご連絡ください。

2. ウェブサイトからのお振込み

クレジットカード決済もしくはコンビニ支払でご寄付頂けます。

3. 現金書留

募金事務局宛てにご送付ください。



お問い合わせ

学校法人宮城学院募金事務局 (総務人事部内)

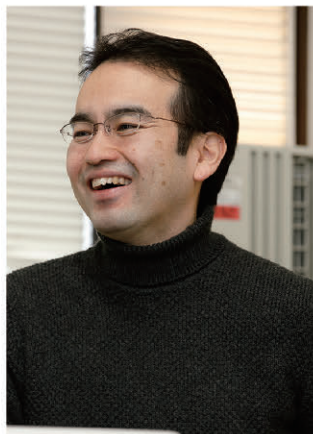
TEL. 022-279-1311 E-mail. kifu@mgu.ac.jp



実践やフィールドトリップを通して 建築設計・デザイン・まちづくりを学ぶ 生活や社会を設計、建築的視点から考え未来をデザインする

コンペや模型づくりに参加
エスキス(スケッチ)をしてスタディー
すること)を繰り返し形にする

安田 設計は、非常に幅広い分野です。「都市・建築設計研究室」では、建築物の設計



安田 直民 准教授

を専門に、様々なかたちで建築物と関わりながら、実際の設計の進め方、必要な知識を、実践を兼ねて学ぶことを目標にしています。3年生は、アイディアコンペや実施コンペに挑戦したり、フィールドトリップとして、建築現場や有名建築物、研究所などを見て話を聞いたり、南三陸町で森林や製材所も見学しました。

また、私が所属する建築家協会が企画する、近代建築の巨匠、前川國男さんが建築した建物の模型製作にも参加しました。他にも、宮城学院女子大学が取り組んでいる「多様性」を建築的な視点でとらえ、誰でも使えるわかりやすいトイレサインのデザイ



生活科学部 生活文化デザイン学科

安田 直民 准教授

【生活科学部 生活文化デザイン学科3年「都市・建築設計研究室」の皆さん】

齋藤 綾乃さん 高橋 妃奈さん 船田 真由さん 宮内 彩乃さん
三浦 花依さん 真山 柚乃さん 佐藤 愛優さん 佐々木 京香さん

ンも考えました。ところで、皆さんがこのゼミを選んだ理由や、ゼミの取り組みで印象に残っていることを教えてください。

齋藤 私は建築系の論文を書きたくて、相談しやすかった安田先生のゼミを選びました。印象に残っているのは、高橋さんと組んで「働きものの住宅」というデザインコンペに参加したこと。今、災害などで大変な思いをしている方に、雨水をろ過する原始的なやり方を採り入れた住宅を考えました。

高橋 「働きものの住宅」コンペは、何度も案が変わりましたが、震災の経験で水の大切さを実感していることから、水が潤う住宅を作りたいと思いました。

船田 私は安田ゼミの先輩の話を聞いて、卒業制作で住宅の設計をしようと思ったので、20XX年のパブリックスペース」というコンペに参加して、2030年の定禅寺通りについて調べて、未来の居心地の良い公共の場の案を考えたいのが楽しかったです。

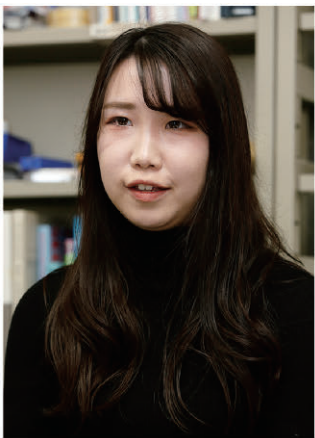


齋藤 綾乃さん

宮内 この学科では女性学の観点から、生活の中の建築を柔軟に学べます。私も、このゼミを選んだのは安田先生が話しやすかったから。コンペやフィールドトリップなど、実践的に楽しく学べます。

三浦 安田先生は、建築設計の現場で働いていて経験も豊富。ゼミでは、前川國男さんの建物の古い図面を読み込んで形を想像し、CADに起こして、何度も模型を作り直した過程が楽しかったです。

真山 私も前川國男さんの模型づくりが印象に残っています。自分で設計した図面では

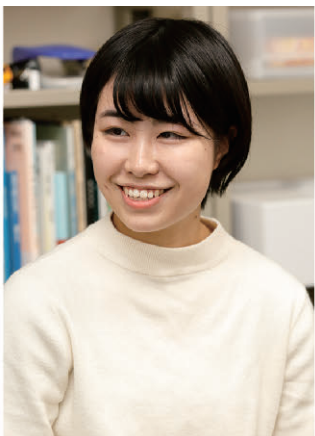


高橋 妃奈さん

はないので読み取りが難しく、大人数でひとつの模型を作るのも初めてで大変でしたが楽しかったです。

安田 古い建物で、単位も尺をメートルに直すことから始めました。たくさん作業がありましたが、模型づくりのプロセスを学びながら完成度の高い模型を仕上げられたと思います。

佐藤 私は先輩に安田ゼミの話を聞いて、貴重な経験ができると思いました。南三陸町の見学では木に興味がありましたし、これからの世の中に大切なジェンダー



船田 真由さん

レスや多様性というサインデザインに関わったのが印象に残っています。

佐々木 トイレサインをデザインするために学校のトイレの現状を調べましたが、わかりやす過ぎても人によっては嫌な思いをする可能性もあり、使用者への配慮も必要で、難しかったです。

身近な生活や地域の問題が
卒論・卒業設計のテーマ

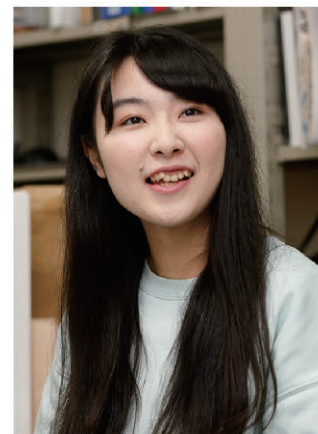
安田 4年生は、論文、卒業設計に取り組み

ますが、3年生のゼミでは個々の研究についてその取り組み方やプロセスについて学びます。模型づくりやアンケート調査、プレゼンテーション、エスキスのアイデアを何十回も重ねながら答えを導いていくことなどです。皆さんが今後取り組みたいテーマを教えてください。

齋藤 私は、必要最小限のもので暮らすミニマリストや、若者に人気がある、丁寧な暮らしをしている人を取り上げたいと考えています。自分の暮らしをSNSにアップする人が多いのは何故か、それでどう若者の暮らしが変わるかもテーマとして考えています。

安田 なぜSNSにアップするか、という視点は面白いですが難しい課題ですね。

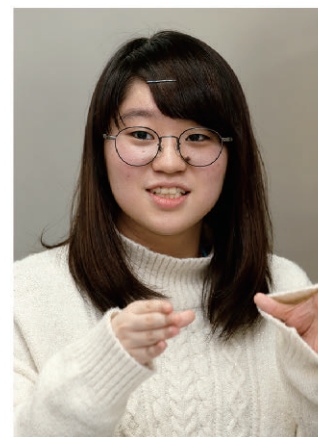
高橋 私が育った大崎市古川の商店街は、昔はお祭りも活発で栄えていましたが、今は建物が解体され閑散としています。古川の歴史や衰退した原因を追究し、商店街の活性化を検討しています。



宮内 彩乃さん

安田 建築以外の側面が多く難しいテーマですが、よい視点だと思います。今は小売店舗が商売として難しいと言われている中、衰退していない業種があることをヒントにするのもいいかもしれません。人が歩いて楽しい街にする工夫もポイントですね。

船田 私が電車通学で感じているのは、地域の顔となるはずの駅周辺に人通りが少なく閑散としていること。駅の待合室には椅子しかないの、高校生が勉強する場所や、駅周辺、地域を活性化する施設が作れ



三浦 花依さん

たらと思います。

安田 成功事例はいくつかあります。経済的な循環や、幅広い層の生活と駅が重なる仕組みがあればうまくいくかもしれません。

宮内 私は地元の福島県いわき市の駅周辺をアーケードでつなぎ、地域の交流の拠点や観光資源にもなる施設を設計したいと考えています。

安田 かつては生きるためにコミュニティを作っていましたが、現代は本心にコミュニティが必要か、というところから考える



真山 柚乃さん

と面白い答えが見えるかもしれません。**三浦** 母が保育士をしていることもあり保育環境に関心があります。特に発達障害をもつ子どもたちの保育施設の現状や、よりよい成長のための工夫など、焦点を絞って研究したいと考えています。

安田 非常に建築的なテーマです。保育園や幼稚園は制度として過渡期で、施設の考え方についても見直しが必要です。発達障害の考え方も日本は遅れています。まず今の社会をリアルな視点で考え、現状を良くする答えを導くのはいいと思います。



佐藤 愛優さん

真山 私は地元が名取市で、震災の被害が大きかった閑上を久しぶりに訪ねてみると、徐々に復興していますが、人通りが少なく、過疎化が進むと感じました。その解決策として、閑上に人を呼び込む公共施設を考えたいと思います。

佐藤 私の地元の柴田町は桜の時期は大勢人が来ますが、県外や外国からの観光客が宿泊する施設が不足しています。その時期以外は観光客が少ないので、地元の魅力を知ってもらえるように卒業設計で宿泊施設を設計したいです。

安田 周辺の地域の魅力や、住みたいと思える取り組みなどを紹介できると、よいですね。卒業研究の設計は、自分のスタンスを明確にして事例研究を重ね、周辺の環境を調査します。施設を設計するための研究とは何かを考えてアプローチをしま



佐々木 京香さん

しょう。

佐々木 私の故郷は秋田県海に近い場所です。美しい景色を楽しめ、人を魅了する新しい海の家を設計したいと考えています。

安田 海の家は夏に特化した施設ですが、冬場も人が来る圧倒的な魅力を発信するものを提案できるといいですね。

さて皆さんのテーマをうかがいましたが、建築を学ぶ上では、街、建物、インテリアなど、何にでも興味をもって取り組んでほしいです。知らないことはわかるまで調べるなり聞くなりしてください。卒業まであと1年。設計も研究も、1、2日でできるものではないので、就職活動と並行して地道に取り組んでください。卒業設計も今までの課題とは違います。納得のいく設計のために、検証や実験も大切です。そこで追求するスタンスで頑張ってください。





「知識をもとに自ら考え判断すること」を学ぶ

教育学部 教育学科 門間 典子 教授

東北大学病院で39年間看護師をしてきました。看護師の仕事というと、患者さんに注射をしたり、血圧を測定したり、医師のもとで指示どおりのことをすると考える方が多いと思います。けれども、現場では自律性が求められます。患者さんを見て、何をするべきかを考え、自分で最適な行為を判断して行い、結果に責任を持ちます。患者さんが「痛い」と言ったら、身体の状態や治療の過程を考え、痛みの原因を推論し自分の考えを医師に報告します。考えるペースには、医学的な知識や看護スキルがもちろん必要です。

私の場合、看護の道に進む特別な動機はありませんでしたが、学校では病院実習が楽しく、就職してさらに面白いと実感しました。何故なら

看護は自律性が高い
クリエイティブな仕事



Profile

岩手県宮古市出身。東北大学医療技術短大卒業後、東北大学病院勤務。看護部長等を経て、東北大学病院特任教授。2019年4月から現職。東北大学医学系研究科博士課程前期修了、看護学修士。日本看護学会、日本看護管理学会所属。○信条「笑福来福、人生は一度しかない、日々を楽しむ」

私のおすすめ本

新人ナースの心構え (日本看護協会出版会)

看護師1年生が仕事をする上での基本や社会人としての心構えがわかりやすく書かれたHOW TO本。「職場ってどういうところ?」「何のために働くの?」といった疑問への回答は業界を問わず参考になります。門間典子先生も親身で適切なアドバイスをしています。



これが学びのツボ!

アルバイトやボランティアなど、学外で活動する時、友達だけで固まらず、知らない人、違う世代の人にも積極的に話しかけてみましょう。いろいろな人と接することで物の見方が広がり、コミュニケーション力が磨かれます。



「読み調べて、歴史的事実を発見すること」を学ぶ

一般教育部 高橋 陽一 准教授

※2020年4月より学芸学部人間文化学科所属

現代と当時の人の目線に立ち
物事を多面的に見る面白さ



小学生の頃から歴史が好きな父の隣で大河ドラマを見て育ち、歴史に興味を持ちました。また、大学の江戸時代の授業の内容が政治史ではなく、一般庶民目線の生活史で、とても興味を惹かれました。大学院で色んな先生の調査に同行して古文書が読めるようになると、ますます面白くて江戸時代の研究にはまりました。

江戸時代は、身分制度が厳しくかたいイメージがありますが、一般庶民はイキイキと暮らしを謳歌していました。古い時代の史料は少ないですが、江戸時代の史料は旧家の土蔵など身近なところに豊富に残っていて、本物の史料に触れる醍醐味もあります。昨年は、趣味で参加している古文書サークルで、江戸時代に仙台から歩いてお伊勢参りをした方の旅日記を皆で解読し、一冊の本にまとめました。

宮城学院女子大学では、仙台の歴史や日本における東北の位置づけなど、東北史や地域史を教えています。東北出身の学生が多いので、東北に関する正しい知識を学び、自身の新しい見方を見出し、愛着や誇りを持つてほしいという思いがあります。また仙台には歴史が好きな人が多いので、歴史の知識は就職後もコミュニケーションツールとして使えます。

私のおすすめ本

武家の女性 (岩波文庫)

婦人解放運動の思想家だった山川菊栄が、水戸の武士の家に生まれ育った母親から聞いた武士家庭の暮らしや日常を書いた生活史。男尊女卑の時代と思われがちな江戸時代に、厳しいしきたりや藤の中でも前向きに生きる女性の姿が描かれています。当時の人の目線に立つ大切さを教えてくれた一冊です。



これが学びのツボ!

勉強は、興味・関心を持つこと、疑問に思うことから始まります。「伊達政宗は本当に眼帯をしていたの?」でもかまいません。「こんな疑問は恥ずかしい!」などと思わず、素朴な疑問を持ったなら調べてみるのが大切です。

ワークショップ

クリスマスの飾りやお菓子をハンドメイド



クリスマスソングを堪能

音楽



「多様性」がコンセプト

にじいろカフェ



今回の収益の一部と皆様にご協力頂いた募金は
台風19号の被災地支援のため
宮城県共同募金会へ寄付しました



2019年
12月15日

第6回 宮城学院 クリスマス マーケット



2014年よりスタートしたイベントも6回目を迎えました。今回は本学内で養蜂し採蜜したハチミツを販売。ラベルデザインも学生が手掛けた「ミヤガクハニー」は大好評でした！

礼拝

たちまち
クリスマスモード！



マルシェ

売切続出、大盛況！



Action

躍動するMG生!

学内はもちろん、
さまざまな舞台で活躍する
MGUの学生たち。
ここでは、そんな彼女たちの様子を
紹介します。



ラクロス部が全国大会に出場 5年越しの悲願を達成

本学ラクロス部が、10月20日(日)に行われた第26回東北学生ラクロスリーグ戦(女子)において東北大学との決勝戦を7-5で制し優勝、東北リーグ1位となりました。

本来10月12日(土)に開催されるはずだった決勝戦は台風19号の影響で順延されましたが、優勝への強

い気持ちを保ち、5年越しの悲願を達成することができました。

さらに、第11回ラクロス全日本大学選手権大会の2地区予選が11月2日(土)に洛西浄化センター球技場(京都府)で行われ、10-4で愛媛大学を制し全国大会への出場が決定。全国大会第1回戦は11月17日(日)に仙台市陸上競技場において行われ、惜しくも5-6で北海道大学に敗れ、2回戦への出場は叶いませんでした。

しかしながら、東北地区ラクロスリーグの得点王には教育学部教育学科健康教育専攻4年の加藤杏奈さんが、また大会ベスト10には、加藤さんのほかに学芸学部英文文学科3年の東山令奈さんと教育学部教育学科幼児教育専攻3年の村上遥香さんの3名が選ばれ、さらに村上さんは最優秀選手賞(MVP)も同時受賞し、多くの快挙を成し遂げた大会となりました。



「鯖ちくわ」が農水省フード・アクション・ニッポンアワード2019を受賞

農林水産省が主催する「フード・アクション・ニッポンアワード2019」において、現代ビジネス学部現代ビジネス学科の石原ゼミと石巻市の水野水産株式会社が連携して開発した商品「鯖ちくわ」が、受賞10産品に選ばれました。

第一次審査では、応募総数1491産品から100品が入賞産品として選出。そのうち10品が最終審査会で受賞産品として選出され、表彰されました。

本商品は、国産100%のスケソウダラのすり身に宮城県産ヨシキリザメの魚肉を加え、さらに石原ゼミが学校給食向けに開発した石巻産「金華さば」の中落ち付きレトルト中骨をすり潰して「落とし身」として配合しています。

「鯖ちくわ」は百貨店・藤崎のお歳暮ギフトにも「3種のだしで味わう石巻の味覚セット」の一部としてラインナップされ、好評を博しました。



日本文学科3年・吉田詩織さんが 第202回コバルト短編小説 新人賞を受賞



集英社主催、選考委員を作家・三浦しをんさんが務められている「コバルト短編小説新人賞」に、

学芸学部日本文学科3年の吉田詩織さんの作品「卒業」が選ばれました。吉田さんはこれまでも、書評専門誌「週刊読書人」への書評掲載や、山形新聞「山新文学賞」佳作入賞などの実績を積み重ねています。

吉田さんは「素敵な賞をいただけて本当に嬉しいです。今後も書き続けられたら幸いです。」と話しました。

——ラジオの仕事に志すきっかけは？——

小学生の頃からラジオに慣れ親しんでいて、小学校、高校、大学は放送部や委員会に所属していました。特に好きだった番組「赤坂泰彦のミリオンナイツ」で、阪神淡路大震災で被災した女性が1年後に電話出演し、当時とてもラジオに救われたという話をしていたんです。そのことに感動し、ラジオの仕事に就きたいという思いがますます強くなりました。

——ラジオ局への就職は難関では？——

大学時代に放送部の先輩がラジオ3で月1回番組を担当していて、私と後輩も参加していました。ラジオ・テレビ局でのアルバイト経験もありましたが、メディア系への就職活動は狭き門ですべて不採用。結局、一般企業に就職したのですが、ある日ラジオ3でお世話になった方から欠員が出たと連絡を頂いたんです。当時の職場には申し訳ないと思いつつ退職し、ラジオの道に進みました。



「地域の面白いことをラジオで伝えたい」佐藤さんと「今後はPRが課題」と話す青木さん。「ラジオは距離の近さが魅力」と意見が一致



ベガルタ仙台のアウェイ中継のディレクターを長年担当しサッカーが好きになったそう。初めての土地に行けるのも楽しみ



「話を聞いてワクワクしてきました」と話すマスコミ志望の佐藤さん。「華やかに見えても、現実的には大変な面もあります」と青木さん

あらゆるメディアの中で生活の一部に選んでもらえるラジオ番組を作りたい

ラジオ3
パーソナリティ
サッカー実況中継
ディレクター
青木 朋子さん



——仕事の内容を教えてください。——

例えば生放送の情報番組の場合は事前にゲストの情報調べて質問内容を考えておきます。ベガルタ仙台の実況中継では、中継場所を借りる申請から回線の申し込み、移動の手配、実況者が話しやすい環境作りなど多岐に渡ります。番組制作の収支を考えることも大切です。コミュニティFMは少人数運営で一人何役もこなしますので、自分のやりたいことがすぐに提案でき、実現しやすい環境が魅力です。

——印象的だったエピソードがあれば教えてください。——

東日本大震災の時、街で見つけた炊き出しなどリアルタイムの情報をTwitterに書きこみました。すると見た人が拡散してくれたり、番組内でも逐一紹介する流れが自然にできました。家族が見つからないという情報を放送すると、後日「無事家族に会えました」とお礼を言われたり。ラジオ3を聴いてくれる方がいると実感

できて、やりがいを感じました。

——今後の夢や目標は？——

ラジオ3は来年の2月で開局25周年を迎えます。様々なインターネットメディアに人は流れても、ラジオはなくてはならないものであってほしい。私は震災の時にスマホのラジオアプリで仙台空港の被害を知り、ラジオを携帯する大切さを実感しました。非常時に限らず、普段から皆さんがラジオを聴く習慣がつくような番組を作っていきたいと思っています。

——マスコミ志望の学生にアドバイスをお願いします。——

この仕事は、いつどんな人と仕事をするかわからないので、学生時代に様々なことに興味を持ち、見て聞いて、体験しておくのが良いと思います。私のような就職の例もあるので、多方面にアンテナを張り、顔を出して人脈を作るなどいろいろな種を蒔いておくと、声をかけてもらうチャンスがあるかもしれないので、やりたいことにはあきらめず挑戦してください。

Profile 青木 朋子さん

宮城県仙台市出身。2002年3月宮城学院女子大学英文学科卒業。仙台シティエフエム「ラジオ3」パーソナリティとして「ラジオ3マイタウンRADIO」「柳575便」などの番組を担当。生放送のMC、CMナレーション、イベントMCのほか、番組制作・編成にも携わり、ベガルタ仙台の実況中継ではディレクターを務める。

【取材】

佐藤 奈々美
(現代ビジネス学部 現代ビジネス学科2年)

【取材場所】

ラジオ3 スタジオ

サークル紹介 01

弓道部

- 部員数: 16名
- 活動日: 月・水・木・金曜日
- 活動場所: 学内弓道場

リーグ昇格を目標に練習あるのみ!

弓道部は現在、東北学生弓道連盟のリーグⅢ部に所属しています。Ⅱ部昇格を目指して日々練習していますが、10月に行われた大会では個人戦で2位と3位に入賞したにもかかわらず、上位リーグ進出を逃してしまいました。リーグ昇格は、先輩たち、そして私たちの目標。来年度こそはと一同練習に励んでいます。

和気あいあい、でも勝負は正々堂々と

基本的に弓道場はいつでも使えるので、授業の合間や休日に練習をすることもあり、環境は恵まれています。上達して選手の座を勝ち取るのがまず大事。12月の学内大会でも、学年関係なく正々堂々と戦いました。メンバーは和気あいあいとしていますが、いざ弓を引くと空気がすっと引き締まります。



モットーは悔いなく射る
「弓魂」精神



いざ大会へ。
友だちであリライバル!



部長
相原 亜梨紗さん
(学芸学部 英文学科 2年)

サークル紹介 02

クラシックギター部

- 部員数: 27名
- 活動日: 水・金曜日
- 活動場所: C407教室

入部のきっかけはあたたかな雰囲気

私は中学・高校と音楽系の部活動に所属していましたが、クラシックギターはあまり体験してこなかった楽器でした。入部の決め手は当時の先輩方の雰囲気。緊張をほぐすようにあたたかく出迎えてくれました。現在もたくさんのメンバーが在籍していますが、みんなとても仲良く、全員での合奏や数人ずつの重奏など、メンバー同士協力して演奏しています。

成果が問われる演奏会
挑戦が成長につながる

演奏を披露する機会は、大学祭や定期演奏会、オープンキャンパスなど。練習を重ねてもなかなかうまくできないこともあります。『やってみよう』と思ったときに挑戦できるのは大学生だからこそ。サークル内では、経験・未経験も学科・学年も関係ありません。自分の成長に繋がる大きな経験ができる場所です。



素敵な演奏を
たくさんの方に届けたい!



大学祭は
練習の成果発表



部長
神成 美佳さん
(教育学部
教育学科幼児教育専攻 2年)

「保護者のための就職支援セミナー」開催

本学では在学生の保護者の方を対象に、本学の就職支援内容や最近の就職状況、新卒採用についてなどを情報提供するセミナーを毎年秋に開催しています。11月2日(土)に開催したセミナーは、98組123名の保護者の皆様にご参加いただきました。

全体セミナーでは『今どきの就職事情を理解し、保護者として取るべき行動を理解する』と題し、株式会社アフターリクルーティング代表取締役池谷昌之氏にお話ししていただきました。今年も、めまぐるしく変わる就職活動スケジュールの解説や、学生に対して保護者の皆様にごお気遣いいただき

たい言動・行動、リクナビ問題から見る学生を取り巻く現在の就職環境などについて詳しく説明していただきました。続いて、一般企業/栄養士/教員・保育士の3つの教室に分かれ、内定を得た4年生(ジュニアアドバイザー)7名が自身を振り返り、保護者の方とどのような距離感で接したかなど、それぞれのケースを紹介しました。

参加された保護者の方からは「親としても今どきの就職事情をくわしく知っておきたかったので参加した。」「リアルな様子が聞けて良かった。今やるべきこと、今後やるべきことが見えて安心した。」といった声が聞かれ、関心の高い様子が伺えました。

このセミナーは、所属学科や学年を問わず、在学生の保護者の方であればどなたでもご参加頂けます。ご興味をお持ちいただけたらぜひ来年度にご参加ください。



このセミナーは、所属学科や学年を問わず、在学生の保護者の方であればどなたでもご参加頂けます。ご興味をお持ちいただけたらぜひ来年度にご参加ください。

私立大学研究ブランディング事業
ロゴデザイン決定

「私立大学研究ブランディング事業」とは、学長のリーダーシップの下、大学の特色ある研究を基軸として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学等を文部科学省が重点的に支援するものです。本学は2018年度に当事業に採択され、「東日本大震災を契機とする(地域)こども学」の構築(こども視点に立ったコミュニケーション研究の拠点形成)と題したプロジェクトを推進しています。被災地にある大学として地域復興を強く推進してきた実績をもとに「学習支援」「食育」「子どもの居住・生活環境」を最重要課題とする「地域こども学」を構築し、その知見をもって子どもの視点に立ったコミュニケーション研究の拠点形成を目指すことを目標としています。

この度、事業のシンボルとなるロゴマークを学内で公募し、生活科学部生活文化デザイン学科3年・齋藤綾乃さんの作品を最優秀デザイン賞に決定しました。齋藤さんは「構築する、とい

う言葉から、積み上げる↓積み木を連想してデザインしました。『学習支援』『本、えんぴつ』『食育』『おにぎり』、『子どもの居場所』『家』を積み木(図形)で表現し、それぞれがつながり積み重なってコミュニケーションがあるという意味があります。また、おにぎりの三角の部分は木にも見えるように積み上げたデザインにし、子どもたちの笑顔と建物でコミュニケーションと一目で分かるようなロゴにしました。と話していました。ロゴマークは今後、研究活動に関連したアイテムや書類等に活用します。



あとがき

12月に東北各県で放映された本学創立70周年記念のテレビ番組内で、平川新学長は「入学後、学生は様々な学びや経験を経て、4年間といわず1年間で大きく変わる」と話しました。大学には様々な地域から学生が集まり、多様な経歴を持つ先生方が在籍し、授業でもプライベートでも行動範囲が広がります。新入生にとっては刺激の多い1年間だったことでしょう。後輩ができるのももうすぐです。4年生はいよいよ社会人。さらに広い世界が待っています。